

### 第一回例会発題を聞いて

田草川すみ江

このたびは鈴木先生から具体的なお話を伺い、教会を立てられたお祖母さまの深い思いと、それを継承なさったお父様、そして、今、なおその思いを継続して幼児教育を継がれている信行先生。そのお話を通してすべてが神様の深いご計画の中で行われていることを痛切に感じました。

少子高齢化社会の今、これからもっともっと子どもの数が減るだろうということを思い知らされました。日本キリスト教団教勢統計推移表を見るとCSの礼拝出席者が随分減少してきています。主日礼拝の出席者も同様です。今、キリスト者として何をしなければならないのか。

神様の深い思いをそれぞれの立場で伝えていくことが大きな課題だと思うのです。その思いを継承すべくいろいろな分野の方々のお話を伺いたいと思いました。

### プロテスタント伝道150周年信徒大会

11月22日午後6時から東京山手教会を会場に信徒大会がおこなわれ、全国17教区120教会から会場に入りきれない845名の信徒が集いました。礼拝に始まり「イエスを証すると」題した150年の歴史を振り返るスライド、また交わりの時として映像による数教会・団体の歴史成長記録、また全17教区の代表による1分間スピーチ、そして盛大に全員で歌った大会イメージソング「いつまでも続く教会」。最後に「・・・伝道200年を目指して進んでまいりたいと心から願う」との大会宣言の後、祝福をもって盛大に終了した。また、翌23日には教団の150年記念大会が青山学院大にて約



1500名の参加をもって行われた。説教・讃美・記念講演が行われ、「キリストこそ我が救い」との信仰の基盤に立って伝道に励むことことを誓いあった。



### 次回例会のご案内

日時：12月7日(月) 午後7時～9時

会場：愛宕町教会

説教：船戸良隆 先生

発題：「どんぐり牧場」横山文彦 (大月新生)

### さらに第3回例会の予告

2010年2月8日(月)

『高齢化問題の行くえ』

～これまでの経験を通して～

信田悦子

(やすらぎの家)



編集後記

・プロテスタント伝道150周年の信徒大会・教団記念大会に出席した。全国から集まった信徒・牧師と共に伝道の決意を新たに出来たことは喜びだった。山梨県下のキリスト者・関係諸団体においても分かち合い担いあう関係を強めていきたい。ぜひこの集會にご参加いただき、各分野での現状・課題を認識しあい協働しましょう (清藤)

今、山梨県下のキリスト教関係学校、施設等が一同に会して互いの情報を交換する場がありません。このことは、各団体等が今の時代の中で孤独に自らの使命を果たすことになり、孤立感が大きいといえます。

改めて、県下のキリスト教諸団体が集まり情報の交換と結びつきを強めていく場を持つことで互いに愛し合い、支えあい、仕え合うことができると願っています。

互いに会し、自らの課題を率直に語り合う中で、明日の展望を開くとともに、山梨県下のキリスト教の進展に寄与したいと思います。(北 紀吉)



Tomosibi 灯 Tomosibi

山梨県キリスト教連絡会

2009年10月設立 代表 小島章弘

事務所：〒400-0024甲府市北口3-4-23 日本基督教団 愛宕町教会内 Tel 055-253-8355

### 挨拶に代えて

小島章弘

時あたかもプロテスタント伝来150年ということで、改めて日本におけるキリスト教の歩みを振り返る機会を与えられています。これまで、日本の民主化と近代化に寄与してきたことは認められるところです。

さて、これからの展望はと考えると、期待されていることはあっても応えられていないといわざるを得ません。キリストの証人としてみ言葉を地の果てまで述べ伝えていくことは当然として、多方面にわたってキリスト者が活動している分野の者たちが、共にその課題を分かち合い、担っていくことが望まれていると思われまます。

この度、神の導きにより志を与えられましたことは、キリスト者の横のつながりを強くして、主のご委託に答えていくことにあります。多くの方に加わっていただければと願っています。

『実にキリストは私たちの平和であります。・・・それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。・・・キリストにおいて、あなた方も共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。』

(エフェソの信徒への手紙2:14, 18,

### 第一回例会(発会式)報告

10月3日午後7時から愛宕町教会を会場に19名の出席にて初めての集會を持った。

まず開会礼拝をおこない、讃美と北牧師の説教で御名を崇めた。引き続き代表の小島章弘牧師がキリスト教諸団体、キ

<聖句>

へブル11:1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。11:2 昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました。11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かります。

リスト者の横のつながりを強くし、主のご委託に答える会としたいとの本会の発会によせる熱い思いを語られた。第一回目は、聖愛幼稚園理事長・鈴木信行兄より「聖愛幼稚園とこれからの幼児教育」と題し、聖愛幼稚園と教会との関わり、少子化問題の深刻さ、これから求められる幼児教育の課題と展望、キリスト教保育の灯が点し続けられるようキリスト者仲間の祈りと協力をお願いしたいと発題された。そのあと、役員を選出をおこない、高らかに讃美をささげ、祈りを持って閉会となった。

2009年度の組織会

連絡会代表：小島章弘  
連絡会委員：

清藤城宏 (書記)  
古屋秀樹 (会計)  
鈴木信行

横山文彦

北 紀吉 (顧問)





## 第1回例会講演報告

### 聖愛幼稚園とこれからの幼児教育 ―創立40周年を迎えるにあたって― (学)聖愛幼稚園 理事長 鈴木信行

#### 1 はじめに

聖愛幼稚園は2010年3月で学校法人として創立40周年を迎えます。前身の日本基督教団愛宕町教会立聖愛幼稚園の創立は1953年6月ですから、そこから数えると57周年ということになります。

本園では、この8月の夏休み中に40周年記念事業として幼稚園玄関ホールに500号のフレスコ壁画制作を行いました。題材は毎年のクリスマス会で園児が演じるページェントのフィナーレの場面で、題して“Immanuel”。「インマヌエル―神ともにいます」とのクリスマスの祝福が、これからもずっと聖愛幼稚園で育つ子ども達に、また、聖愛幼稚園から巣立った全ての子ども達に豊かに注がれるようにとの祈りを込めた作品です。

本日は記念すべき山梨県キリスト教連絡会第1回目の発題に聖愛幼稚園についてお話する機会を与えられ、40周年を迎えるにあたりこれまでの歳月を振り返ることで現在の姿を見直し、現在とこれからの課題について考える機会とさせていただきたいと思えます。

#### 2 聖愛幼稚園の沿革

聖愛幼稚園は私の両親鈴木顕栄、節子が寄付行為により学校法人を設立し、創立した幼稚園ですが、何故幼稚園だったのかについては、その母体となった愛宕町教会の歴史を遡らなければなりません。

愛宕町教会初代牧師となった顕栄の母鈴木鶴代は甲府市内の小学校教師をしていた1908年に甲府教会で受洗。1922年に上京してホーリネス教会に導かれ、夫と長男の死をきっかけに東京聖書学校に入学。1937年に甲府ホーリネス教会第5代牧師として就任し、1941年甲府百石町教会と改称、1943年教会解散、鶴代も教師籍を失った。戦後の1946年に教師籍復活と同時に甲府市愛宕町の自宅で家庭集会を開始。1947年自宅を集会場に日本基督教団愛宕町教会設立、初代牧師となっています。

顕栄は1945年9月東京神学大学入学、所沢教会(小林吉保牧師)に出席しながら食料事情を理由に頻繁に帰甲し、愛宕町教会創立及び誕生間もない同教会活動に関わっていたようです。1951年東神大卒業し、直後に愛宕町教会に着任、翌1952年には旧会堂の建築にかかり1953年1月に献堂しています。この間、顕栄は東神大4年在学中の1949年に服部節子と婚約、ほぼ同時に節子は玉成保育専門学校入学しています。1952年4月節子と結婚し、直後に節子は葦崎英和幼稚園に奉職(節子曰く、同幼稚園への就職について本人には相談無く決まっていたとのこと)。翌1953年6月完成したばかりの旧会堂を園舎に聖愛幼児園開園し、園児13名、職員4名でスタートしています。この1949年～1953年のたった4年間で極めて緻密に計画的だったことに驚かされます。

何故幼稚園だったのか、また、何故こんなに計画的だったのかについては必ずしも定かではないのですが、顕栄は小林吉保牧師の子息小林哲夫(後の桜台教会牧師)牧師とは神学校の先輩後輩で特に親しかった様子で、小林吉保牧師と哲夫牧師による桜台教会設立が1951

年で桜台幼稚園設立が翌1952年と愛宕町教会と聖愛幼児園の設立と相前後しているところからして東神大1～3年在学中に愛宕町教会の創生に関わりながら親友の哲夫牧師と開拓伝道と教会形成についてのビジョンをかなり具体的に明確な形で語り合っていたのではないかと推察できます。伝道の一手段として、開拓伝道を継続する上で生活維持の手段として、また、幼児教育が必要とされるであろうとのニーズの先取りとして幼稚園事業が相応しいと考えた結果なのでしょう。個人的な事情としては顕栄が2歳から母子家庭で育ち、9歳で母ひとり子ひとりになったことが堅実な計画性の背景にあるように思えます。そして1954年、鶴代が4回目の脳溢血発作で召天します。

当時の愛宕町教会役員会は幼稚園事業については肯定的ではなく、幼稚園事業について役員会は責任を負わず牧師の責任で運営することになったと聞いています。この変則的な状態は見直されること無く、1986年聖愛幼児園閉園まで続くこととなります。

1962年に顕栄は無牧になった巨摩教会附属峡南幼稚園園長を兼務することになり、1976年徳田牧師就任まで続きます。1970年学校法人認可、聖愛幼稚園(定員120名)開園に伴い70～76年の6年間、3園の園長を兼務しました。1982年11月愛宕町教会新会堂が完成し、旧会堂は聖愛幼児園専用で使用されていました。

1996年3月顕栄は愛宕町教会牧師退任し、幼稚園理事長・園長専任となる。

2003年3月、顕栄は脳出血の後遺症のため園長退任、信行が第2代園長に就任。

2004年4月社会福祉法人聖愛会認可、なでしこ保育園(定員90名)が甲府市大里町に開園。同年10月、顕栄召天に伴い第2代学校法人理事長に信行就任。翌2005年4月聖愛幼稚園園舎全面改築し、その一部を(福)聖愛会に賃貸して第2なでしこ保育園(定員60名)開園、地域子育て支援センター『あんぱんくらぶ』開室、現在に至っています。

#### 現在の愛宕町教会との関わり

現在の愛宕町教会との協力関係は次のとおりです。

- ・(学法)聖愛幼稚園と(福祉法)聖愛会のそれぞれ役員に愛宕町教会会員3名ずつ就任いただいています。
- ・毎週水曜日に聖愛幼稚園で開催する教員のための聖書研究・祈祷会は愛宕町教会の集会としての位置づけ、北記吉牧師にご奉仕いただいています。毎週、子ども達、ご家庭、園の諸事業の祝福が祈られています。
- ・入園式、卒園式において牧師が祝辞と祝祷をさせていただきます。
- ・収穫感謝祭の礼拝を愛宕町教会礼拝堂で行い、牧師にお話と祝福式をしていただいています。
- ・毎週開催されています。聖愛幼稚園園舎にて愛宕町教会教会学校羽黒分校が毎週開催されています。

#### 3 少子化問題の深刻さ

1989年「1.57ショック」が日本全国を襲いました。この年の出生率(合計特殊出生率。以下同じ)が1966年の「ひのえうま」の出生率1.58を下回ったことによります。これをきっかけに国の施策として少子化対策(エンゼルプラン)に取り組みを始めました。しかし、その後も出生率は下がり続け2005年には1.26になり、この年に我国はとうとう人口減少時代に突入したのです。

幼稚園や私立学校関係者等にとってはこの10年間で特に敏感に感じる少子化問題ですが、一般国民にはまだまだあまりピンと来ないことでしょう。しかし、ごく身近に甲府市の少子化問題として見直すとその深刻さに唖然とします。

甲府市の出生率1.35(2007年)がこのまま続くと仮定すると2005年⇒2055年には、総人口19万4千⇒9万、老年人口(65歳以上)3万7千⇒3万4千、生産年齢人口(15～64歳)13万⇒4万7千、年少人口(0～14歳)2万7千⇒9千ということになります。こうなると労働力不足だと年金制度が破綻するとかいったレベルの問題ではなく、少なくとも甲府ではほとんどの職業は成り立たなくなり、私たちの子どもや孫が甲府に住み続けることはほとんど不可能になるだろうことは誰の目にも明らかです。

日本経団連等経済界は少子化対策について具体的な政策提言を行い、政府も次々に少子化対策を打ち出しているのですが、財政難を口実に効果的な対策を実施できずにいます。また、財政事情から本来は少子化対策に優先順位が高いはずの地方の市町村が目の前の高齢者施策に追われ、国が示す少子化対策すら心許ない現状です。

子や孫にどんな街を＝どんな未来を残すのか、その視点から、今、効果的な施策が急がれているのです。

#### 4 幼稚園に求められるもの

1980年代から世界各国で幼児教育・保育改革が進められています。グローバル化、情報化、科学技術等が急速に進歩する世界で国家戦略として子ども達にどんな力を育てるのか?との視点からの新しい学力観。脳科学や発達心理学の進歩に伴い幼児期の教育環境の重要性が証明。子どもの権利条約の浸透による子どもの権利への関心の深まり。等々がその背景にあります。

国家政策のレベルでは、日本は残念ながらその競争に乗り遅れています。幼児教育、保育の質が問われているのに我国の幼稚園クラス定員が35名(OECD諸国は12名～18名)のみであることにも端的に現れています。しかし、現場レベルでは、現在、保育の質の向上のために努力している意識的な幼稚園も増えてきていて、山梨県の私立幼稚園の団体でも県下の教員養成大学の全面的な協力で日常的な研修、研究活動を実施しています。地域の就学前教育センターとしての役割を果たせるのは幼稚園以外にないという自負と責任感が求められています。また、少子化対策の最前線としての子育て支援センターとしての働きも重要です。

#### 5 聖愛幼稚園の幼児教育

聖愛幼稚園では次の5つを教育目標に掲げています。

- ・神ともにいます。基本的な信頼感を育む。
  - ・友達と遊ぶことが楽しくてしょうがない子ども一人とかかわる力を育む。
  - ・多様な子ども集団で具体的な体験(自然、農業等)を大切にする。
  - ・健康に生きるための意識を育む。 ― 食育、運動 美しいもの(美術、音楽)を感じ、楽しむ感性の醸成
- この目標を達成するための具体的な方法として次のとおり実践しています。
- ・徹底した少人数クラス 年少12名、年中・年長18名(OECD基準)
  - ・ティーム保育の工夫
  - ・縦割(異年齢)活動の重視
  - ・特別支援教育の実践

#### 6 課題と展望

(1) これからますます期待される機能としては次の3点が挙げられます。

- ・地域の子育てセンターとして
- ・保護者への施策(親育て)
- ・課外教室等の充実(地域への開放)

(2) 多様な機能を十分果たすために今後いつその必要とされる事項は次のとおりです。

- ・制度政策研究 幼児教育・保育のみならずその周辺まで行政施策等の幅広い情報収集と利用
- ・教職員の専門性の向上 障害児教育、カウンセリング等の知識、技術をもった教員の育成
- ・関連団体、組織との連携協力関係 幼稚園・保育団体、キリスト教会及びキリスト教、教育・福祉等にかかるネットワークの形成と協力

#### 7 おわりに

現在、県内ではキリスト教保育連盟加盟園が幼稚園6園、保育園2園が懸命の努力を続けています。山梨の地にこれからもキリスト教保育の灯が点し続けられるようお祈りください。

